

* 海神会だより

お知らせ事項：今回より重要項目・頁を下記に記載

- 3頁 海事博物館 ボランティア活動について
- 3頁 神戸大学附属図書館 海事科学分館からのお知らせ
- 14頁 海神会会費納入のお願い
(送付封筒の宛名ラベルに納付状況が記載されています)
- 14頁 神戸大学海洋底探査センターを設置
- 16頁 平成28年海神会理事会・総会・懇親会のご案内



神戸高等商船学校・神戸商船大学・神戸大学海事科学部

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

同窓会誌「海神会だより」は海神会ホームページ(<http://www.fukae.org/>)の“海神会だより”からもご覧いただけます



海事科学研究科長の挨拶

海事科学部長・大学院海事科学研究科長
就任(2015年10月)にあたって

海事科学部長・大学院海事科学研究科長

海神会の皆様、我らが母校、国立大学法人神戸大学海事科学部及び大学院海事科学研究科は、1917年9月設立の私立川崎商船学校に礎を置き、まもなく創基100周年を迎えます。「海事教育研究は国家百年の大計 - 次なる100年の飛躍を目指す海事科学部・海事科学研究科」を掲げた創基100周年記念事業が進行しつつあり、母校発展のため皆々様の理解と協力を求めますので、その節はよろしく対応いただきますようお願い申し上げます。

最近の大学機能強化の中、高い目標を掲げた研究活動のさらなる活性化は、有能な海技者はもとより海事社会で活躍する高度専門技術者ならびに海事科学分野の指導的人材の育成と輩出につながる最重視すべき事項です。同時に、12年余前の統合理念「海に開かれた国際性豊かな総合大学」が顕在化する学内外の潮流の中、海事科学研究科・海事科学部の役割と責任がさらに重くなってきたと強く感じます。礎構築では、川崎三代(正蔵翁)、

内田 誠(機関学科26期・南寮304)

芳太郎先生、武之助先生)、神戸商船大学開学では、大羽眞治先生、平勇登先生はじめ先人の皆々様の尽力に感謝しつつ、第2世紀に向かって、深江の地から優秀な若者達を育成し輩出し続けるために、社会への責任感を常に強く意識し、海事科学部・海事科学研究科としての教育研究パフォーマンス向上させ続ける重い責務に取り組んでいます。

人材育成の中で、海技者の育成と輩出は、98年間継続的に深江キャンパスの中核として社会から認知され役割を果たしてきました。数の増減は社会環境の影響を受け続けているものの、これら育成する海技者の質の高度化をさらに推し進めることができ、中核を含む海事科学分野全体に対する社会による評価をさらに高め、ひいては海事科学研究科・海事科学部の進展に大いに貢献すると確信します。皆々様の御理解と御協力をよろしくお願ひ申し上げます。



海神会会长の挨拶

1. 海神会の財政基盤強化について

会長に就任し2年半、他学部同窓会の活動実績や同窓会員の支援、助言などで次第に充実し、実績も上げてきましたが財政基盤がまだまだ固まっていません。我が同窓会の財政基盤強化、健全化のための方策を最優先で実施すべく、今年度はスタートしましたが、まだまだ満足の行かない状況であり、今回の評議会では出席者の皆さんには、改めてご協力、ご支援をお願い致しました。

新しい試みとして寄附制度を導入しました。今年で2年目に入りますが、かなりの方方の賛同を得て寄附も徐々に増えているようで、海神会会員の皆様に深く御礼を申し上げます。

また終身会員からの会費納入については、会費納入率が卒業年次により大きな差が生じております。卒業10周年の節目の同窓会開催に合わせて10万円の寄付と同窓会名簿の穴埋めを行っていますが、中々思うように行かない状況です。神戸大学全体の学友会でも同じような問題があるようですので、他学部同窓会と連携を取りながら改善策を探りたく考えています。

海神会会长 N13期 久保 雅義

新入生の会費納入に関しては農学部同窓会の方法が実績を上げていることなので、その手法を教えて頂きましたので、来年度からは納入率の向上が期待できるものと考えています。

2. 海神会会員から大学への提言・提案の在り方にについて

海事科学部の教育研究活性化への提言・提案に関しては、どのような手続きですめるかについて色々意見交換を行ってきました。ワーキンググループを開催して意見交換を行い、意見をまとめる等の提案等もありましたが、財政基盤がワーキンググループ運営費用を支援できる状況ないことから、最終的には海神会会員の数グループから提言書或いは提案書を出して頂くことになりそうです。この方向に沿って多くの提言・提案がなされることを願っています。

皆様の新たなご協力、ご支援も何卒よろしくお願ひいたします。



前海事科学研究科長挨拶

前海事科学研究科長の挨拶とお願い

平成27年9月末日をもって2年間の研究科長の任期を満了いたしました。この間、会員諸氏におかれましては海事科学部及び海事科学研究科に多大なるご支援をいただき、深甚より感謝申し上げます。

在任中、文部科学省の練習船深江丸教育関係共同利用拠点の認可を受け、2年間に共同利用の実績をつみかさねてまいりました。これにより、代替新造船の計画が現実のものとなりつつあります。一方で、深江丸の研究分野の活用を目的とした「海洋底探査センター」の設立に部局として寄与することができました。そして、そのためのインフラ整備として繫船池の浚渫と係留ドルフィン新設が実現しました。

また、「海事科学教育研究は国家百年の大計 - 次なる100

海神会副会長 N27期 林 祐司

年の飛躍を目指す海事科学部・海事科学研究科一」をスローガンとする海事科学部創基100周年記念事業が開始され、この意義ある記念事業を実施するために資金を募ることを致しました。募金期間は平成29年12月までを予定しております。会員諸氏を筆頭に、広く関連業界のお力添えを賜りますよう、切にお願い申し上げる次第です。

当該記念事業といたしましては、海事科学部及び海事科学研究科の教育と研究の更なる充実、国際海事研究センターの発展及び附属練習船深江丸の代替新造船の実現を推進しようとするものです。実現に向けての会員諸氏の絶大なるご協力をお願ひいたしますとともに、会員諸氏の今後のご活躍を祈念しております。





海事博物館 ボランティア活動について

神戸大学海事博物館は神戸高等商船学校や神戸商船大学時代から現在にかけて海事に関する資料を幅広く収集展示して教育に役立てるとともに、海事の普及を目的に1958(昭和33)年に「海事参考館」として発足しました。その後、1967(昭和42)年の私立川崎商船学校創立50周年(神戸商船大学50周年)記念事業において現在の展示室が講堂の1階に完成したのを機に海事資料館へと改称し、さらに、神戸商船大学と神戸大学との統合1年後の2004(平成16)年10月1日には海事博物館へと名称を改めました。

収蔵品は、江戸時代後期から日本沿岸や瀬戸内海で活躍した北前船などの和船模型を始め、和船の部分実物、船大工の板図や道具類、航路図や海路図屏風、航海の安全を祈願して奉納した絵馬、西洋型帆船や各種の商船模型、近代の航海用具、レシプロ機関やボイラー模型、進水式絵葉書、船や船旅と近代の日本商船隊に関連したコレクションの他に書籍など広範囲にわたり、約3万点を数えます。

かっての当館は一般に非公開でしたが、現在は神戸商船大学のOB6名(1期生3名、4期生2名、7期生1名)が特別専門員(ボランティアスタッフ)として毎週、月、水、金、午後にペアを組んで開館しています。主な活動内容は来館者への対応と案内、収蔵品の整理や寄贈品の受け入れ、史料の貸し出し、さらには企画展の準備等多岐にわたります。毎年、7月の海の記念日から10月



神戸大学海事博物館は、神戸大学深江キャンパスの正門入ってすぐ右の講堂1階にあります。
毎年、海の日を記念して、7月中旬から10月下旬の間、それぞれのテーマに沿った企画展を開催しています。
また、秋季には海事博物館セミナーや大学博物館の連携による共同企画なども開催します。

●海事博物館の見学●

開館日

月・水・金 …… 13:30～16:00

休館日

火・木・土・日曜日・祝祭日・お盆・年末年始

●見学のお問い合わせ・連絡先●

Tel.: 078-431-3564 (不在の場合は078-431-6200)

E-mail: siryokan[at]maritime.kobe-u.ac.jp

※学校、団体などの見学は事前にご連絡をお願いします。

海事博物館 特別専門員
柴田 康彦(航海科7期生)

末のホームカミングデーの間、テーマを決めて、それに沿った数々の貴重なコレクションを展示する企画展でも大活躍しています。

2015年の企画展は、先の太平洋戦争の終了から70年の節目の年に当りましたことから「大戦中の日本商船 船員の姿」と題して開催しました。神戸高等商船学校の卒業生約3,000名中、その26%にあたる約800名の先輩方々が戦没されたという、実際に痛ましい史実がありましたことから、当館では本戦没者名簿の展示を含み「船員の姿」を多方面から取り上げました。

皆様ご存知の通り、2015年12月23日の天皇誕生日の会見におきまして、天皇陛下が「軍人以外に戦争によって生命にかかわる大きな犠牲を払った人々として、民間の船の船員があります。将来は外国航路の船員になることも夢見た人々が、民間の船を徴用して軍人や軍用物資などを乗せる輸送船の船員として働き、敵の攻撃によって命を失いました。」と言及され、戦没された船員やご家族他の関係者にとりましてはありがたいお言葉であったと実感します。

2017(平成29)年は私立川崎商船学校の発足から100周年という節目の年になります。そこで、その1年前の2016年企画展は「神戸における海技者教育100年の歩み(仮称)」と題し、私達ボランティアはこれから当館の専門員(教員)と共に更なる良き企画展示を検討してまいります。ご期待ください。

ところで、海神会会員の皆様の中で、このボランティア活動を是非私たちと一緒にやってみようと思われる方はおられませんか。また、お手許に神戸高等商船学校や商船大学の資料等をお持ちではございませんでしょうか。どのようなものでもかまいませんので、当館までお申し出いただけますと幸いです。

海事博物館スタッフ一同、皆様に身近な博物館を目指します。どうぞお時間がございましたら深江キャンパスに足をお運びください。お待ちしています。

神戸大学附属図書館海事科学分館からのお知らせ

卒業生貸出のご案内

附属図書館では、本学卒業生・修了生の学習・研究活動等を支援するため、卒業生貸出サービスを実施しています。初回利用時に登録が必要です。

●対象者●

神戸大学又は神戸大学の前身となる大学等を卒業・修了・単位取得退学された方

●登録受付日時● 平日 9:00-17:00

●登録時必要書類●

本人及び現住所を確認できる身分証明書(全員)卒業を証明できる書類(2000年以前の入学生で同窓会名簿に掲載のない方のみ)

●貸出冊数● 6冊

●貸出期間● 3週間

●利用証有効期限● 発行年度末(以降更新)

●通常期開館時間●

平 日 8:45-20:00

土曜日 10:00-18:00

休館日 曜・祝日 本学創立記念日(5/15)、

年末年始(12/28-1/4)

※休業期・試験期は変更あり

詳細は下記ホームページにてご確認ください

※お問い合わせ先※

TEL:078-431-6239

E-MAIL:wlibsvc@lib.kobe-u.ac.jp

<http://lib.kobe-u.ac.jp/www/modules/kaiji/>



かもめ会清掃班活動報告

かもめ会（清掃班）は、海事科学部校内及び周辺の清掃・整備活動を行う目的で平成16年に立ち上げられた卒業生及び教職員OBのボランティアです。

清掃活動を始めた頃は、校内には缶・ペットボトルが散乱し、駐輪場には所有者不明の自転車が乗捨てられている状態でした。有志数人で立ち上げられた当初は、通路の落ち葉清掃やゴミの回収でしたが、次第に会員が増えるに従い、草刈機を使っての除草作業、電動バリカンでの国道沿いのウバメガシ生垣の剪定作業等と拡大していきました。

平成22年度からは海事科学部キャンパス内を拠点とするクラブ活動の部員が参加しての合同清掃活動も晩秋に開催するようになりました。徐々に参加学生数が増え、今年度の参加学生数は68名となりました。かもめ会会員が安全指導を担当しての校内一斉の合同清掃は壮観で、集めた落ち葉・ゴミは集積所に次々と山を成しました。

約2時間の活動の後、学生達との慰労懇親会も恒例となっており、OB会員とも色々な話題が交わされ貴重な新旧交流の場となっていました。



かもめ会 N17期 滝本 純治



かもめ会会員での通常清掃は、酷暑期・極寒期を除いて月に2回(2~3時間)実施し、年間15回以上の活動となります。

海神会からは活動資金の支援を受け、清掃用具の購入、学生との合同清掃懇親会費用、ボランティア保険の付保等に使わせ頂いております。紙面を借りて御礼申し上げます。

現在のOB会員数は9名です。年々高齢化により作業効率が下がって来ており、同窓生の参加を募っております。海神会本部又は下記連絡先までお問合せ下さい。

[連絡先] N17期 滝本純治氏 TEL : 0799-90-1681
E-mail : jktakimoto@yahoo.co.jp



第33回白鷗杯争奪ゴルフコンペの報告

第33回白鷗杯争奪ゴルフコンペが2015年10月8日(木)、例年の通り、垂水ゴルフ倶楽部で開催されました。

当日は好天に恵まれた絶好のゴルフ日和の中、OUT6組、IN5組、合わせて41名が参加され、ダブルペリヤ方式による18ホールストロークプレーでの熱戦が展開されました。

常連であった1期生、2期生は残念ながら今年はご参加がなく、最年長クラスとしては4期生の上野行雄さん(N)、岡田道興さん(N)、岡本泰一さん(N)、武屋俊夫さん(E)でした。

プレー終了後、倶楽部ハウスで表彰式、続いて懇親会が開催されました。

優勝は今回初参加、若手2番手の久富央治さん(21N)、ベスグロは山口幸次郎さん(14E)の80(OUT39, IN41)と最若手の網中俊之さん(N23)の同じく80(OUT40, IN40)のお二人が分け合いました。

成績上位者のスコアは以下の通りです。

順位	氏名	NET-OUT	NET-IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	21N 久富 央治	39	43	82	14.0	68.0
準優勝	11N 山野 勝三	46	42	88	17.5	70.5
3位	13N 村井 五郎	43	57	100	29.2	70.8
4位	12N 大浦 洋見	49	46	95	23.3	71.7
5位	13E 金沢 文作	59	47	106	33.8	71.8
6位	14E 山口幸次郎	39	41	80	8.2	72.2
7位	8N 徳井 博	46	44	90	17.5	72.5
8位	23N 網中 俊之	40	40	80	7.0	73.0

毎回、各方面からご支援を頂いており、ロマン会、坂本善正 関西支部長(14E)から多額のご寄付、また三浦敏夫さん(1E)からMCCカレーセットを参加賞として、余田光男さん(5N)から、有馬大黒屋佃煮を賞品として特別価格でご提供頂きました。

加えて当日の裏方役として天野俊夫さん(5E)、赤井勝義さん(12E)、竹入弘さん(14E)、稻岡秀明さん(16E)のお手伝いを頂きありがとうございました。

来年も10月中旬頃に同じく垂水ゴルフ倶楽部での開催を予定しており、海神会メンバー諸氏も徐々に世代交代があろうかと思いますが若手のご参加を含め、多数のご参加をお待ち致します。

海神会 関西支部 支部長 坂本 善正
事務局長 天野 俊夫





1.はじめに

定年を迎える、更に海神会の事務局からも原稿依頼があったことを機に、37年に及ぶ会社生活を振り返り、私のこれまでの人生を整理してみることにした。会社生活を振り返る前に、私の人生に大きな影響を与えた、家族や学生時代のことに関しても触れておきたいと思う。

私が、商船大学を選んだのは、大先輩である父の助言によるところが大きかった。父は、私が物心ついた頃には栃木汽船で外航船の機関長をやっており、殆ど会う機会がなかったが、私が中学を卒業する頃には陸上勤務になり、松岡汽船、徳島共同汽船と会社を2回異動したという記憶がある。60歳の定年後は、明石海峡大橋建設に関連して、主塔建設部周辺の海上交通安全を確保するための警戒船会社で雇われ社長を70歳までやって完全退職した。その後、脳梗塞で倒れ、半身不随の寝たきり生活を10年送って、80歳で他界した。

そんな父は、「商船大学の機関科での勉強は役に立つ。卒業後は、船には乗らず、陸上で仕事をした方が良い（船に乗って、エンジンのお守りをしているだけでは、世の中から取り残される）」という意味の助言をしてくれていた。

私の大学時代、父が徳島共同汽船にいたお蔭で、日本中のフェリー会社に顔が利いたようで、私が車で旅行する場合、他のフェリー会社でも二等料金で特等室（個室）に入れてもらえるという今の時代では考えられない特別なサービスを受けることができた。大学での乗船実習と自家用車でのプライベートな旅行を合わせると、大学を卒業するまでに、茨城県以外の全県を旅することができた。

2. 学生時代

高校時代、吹奏楽部でトランペットを吹き、2年生の6月から3年生の5月までの1年間は指揮者も務めた。指揮者をやるにあたり、指揮法、作・編曲法等も少し勉強する機会が得られた。

お蔭で楽譜は読むだけではなく、書くこともできるようになった。

小学4～5年生の頃、父が何処からか古いギターを貰ってきたことがきっかけで、その頃、流行っていたフォークソングを弾き語れるようになっていた私は、高校を卒業する頃には、フォーク調の曲を何曲か作曲していた。

私が入学した当時の商船大学には、吹奏楽部が無かったが、トランペットを続けたかった私は、父から10万円程借金して、新しいトランペットを買った。

新入生への説明会のとき、航海科21期の先輩（ユーフォニウム奏者）が、「吹奏楽部を新たに創ろう」という呼びかけをされたので、直ぐに連絡を取り、吹奏楽部を創ることになった。

その先輩の仲間には、サックス、クラリネット、ドラム、ギター、ベース等の奏者がそろっていて、ダンス音楽等、軽音楽の演奏会を開学祭等で開催するようになった。

父からの10万円の借金は、毎朝5時から8時まで朝市でネコ車を引くアルバイト（時給500円）で、約1年で完済することができたが、飲み代欲しさに、このアルバイトは4年間続けることになった。お蔭で、学生時代4年間は、毎朝4時の早起きを習慣とする健康的な生活を送ることができた。

今、振り返って、乗船実習で船内での主機・補機類、航海用機器等に関する各担当エンジニアによる講義と現物を使用しての実習等により世の中に存在する殆どの機器に関して徹底的に勉強できたことが、その後の仕事への取組み姿勢、研究等、会社生活で大いに役立っている。

父が言っていたのは、これだと改めて感心させられている。

3. 会社の概要

3. 1 会社の紹介

1978年10月に私が入社したのは、日立サービスエンジニアリング株式会社（略称「HESCO」）という日立製作所茨城地区主要3工場（日立工場、国分工場、大みか工場）の製品の据付指導、試運転、保守等を担当する社員1,000名程度の出張業務中心のサービス会社であった。



HESCOは、兄貴分の日立エンジニアリング株式会社（略称「HEC」）から分離独立したばかりの若い会社で、独身寮もなく、新入社員を教育する機能も有していなかった。

そのため、入社当時は、親会社である日立製作所日立工場の独身寮に居候し、日立工場で新入社員実習という形でエンジニアとしての生活がスタートした。

HESCOは優良企業であり、その後、多くの関連会社を吸収合併し、現在では、5,000名規模の株式会社日立パワーソリューションズ（略称「日立パワー」）に成長している。

3. 2 HESCOに入社した理由

当時、オイルショックの影響もあり世の中は不景気であった。特に海運界は大変な不景気のため求人は殆どなかった。そんな中、HECとHESCOから、それぞれ10名ずつもの求人が来ており、面白そうな会社だというのが第一印象であった。HESCOの方は、海外を含めた出張業務が中心だということで、海外出張を期待して受験してみたところ、運よく合格できたというのが入社した理由である。

3. 3 実習先の紹介

海外出張を期待して入ったHESCOであったが、入社後直ぐに出された辞令の実習先は日立工場の設計部門「電力設計部 核装置設計グループ（=課）」であった。

電力設計部は、日立工場の稼ぎ頭的部門で、大容量発電機（火力・水力・原子力）の設計を担当していたが、発電機とは殆ど関係のない「核装置設計グループ」が電力設計部の一部門として存在していた。



核装置設計グループ（以降「核設」と略す）は、当時、日本原子力研究所向けの大型核融合実験炉「JT-60」の開発に注力しており、人員を増強中であった。JT-60は常電導マグネットのみで構成された装置であるが、将来の核融合炉超電導化を前提に、核設としては、超電導マグネットの開発にも注力していた。核設で私が最初に担当したのは、国鉄鉄道技術研究所が宮崎実験線で開発を進めていた「超電導磁気浮上式列車（リニアモーターカー）」用超電導マグネットの開発であった。

その後、核設での業務は17年間に亘って継続する（後半は管理職）ことになったが、超電導、超高真空や極低温、核融合等、世界の最先端技術の開発に長年携わり、他では経験できない異次元の世界に迷い込んだような、技術者冥利に尽きる貴重な経験をさせていただいた。

顧客打合せや現地据付工事の取り纏め等国内各地への出張も多く、日本各地で美味しい料理や地酒とも出会える嬉しいひと時を過ごす機会にも恵まれた。

4. 担当した仕事の概要

(1)入社後、最初の17年間は、(株)日立製作所 日立工場 核設にて、核融合・超電導関連装置の設計・開発に従事した。主要な担当機器を以下に記す。

- ①磁気浮上式列車用超電導マグネットの開発（日本国有鉄道 鉄道技術総合研究所宮崎実験線向け）
・ML-500の無人車両にて516km/hの最高速度を達成
・MLU-001の有人車両にて350km/h以上で走行（私も試乗した）

②超高真空ビームラインの建設

日立の中央研究所が高エネルギー加速器研究機構KEK（筑波）の放射光実験施設（Photon Factory）内にスペースを借りて建設した実験設備で超高真空のリング内で電子を加速して周回させ、放射光（Photon）を取り出して、種々の研究に利用することを目的としている。

③ウイグラー超電導マグネットの開発（愛知県岡崎の分子科学研究所UV-SOR向け）

シンクロトロン極端紫外外放射光実験設備内に設置した装置で、電子ビームを急激に曲げることにより取り出すことのできる極端紫外光を各種実験に利用するもの。

④九州大学応用力学研究所向けTRIAM-1M

核融合炉に不可欠な超電導トロイダルコイルの開発、核融合炉の小型化、トカマク型装置の連続運転法確立、高性能プラズマの長時間維持等を目的とする。世界で初めてNb3Sn線材を使用し完全安定化条件で設計した超電導トロイダルコイルを採用することで、5時間を超える長時間連続運転記録を達成できた。

⑤金属材料技術研究所（現「物質・材料研究機構」）向けマルチコア20T超電導マグネットの開発

・世界で初めて飽和超流動ヘリウムにより、1.8Kまで冷却することで、超電導マグネットのみで、21.1T（テスラ）の強磁场を発生することに成功した。

⑥核融合科学研究所向けLHD（大型ヘリカル装置）

岐阜県土岐市の核融合科学研究所の「大型ヘリカル装置」は、日本独自のヘリカル型磁場方式により、1時間以上にも亘る長時間のプラズマ維持や高密度プラズマ生成等に成功



した。開発すべき超電導線は、ヘリカルコイルとして捻じりを加えながら巻線しなければならないという強度的に解決不可能と思える問題を抱えていたが、電子ビーム溶接により捻じりに対する強度を確保するというブレークス

ルー技術を見出したことで安定した製造に成功した。

(2)1995年7月以降は、HESCOに戻り以下のような業務を担当した。

⑦風力発電事業の推進

旧HESCOでは、風力発電・太陽光発電等の新エネルギー分野への早期進出を果たしており私も2006年から風力発電事業の推進に携わる機会を得た。風車は、ドイツのENERCON社製を輸入することで、高品質と低価格を同時に満足しており、高稼働率をセールスポイントとして、売り上げを伸ばしている。現在の日立パワーは、本来メンテナンス会社であり、全国展開したサービス員によるレスポンスの良いメンテナンス体制を有しているため、ENERCON社は日立パワーを日本で唯一の総代理店として認定している。

また、日立パワーでは、風力発電設備の販売と並行して、風力発電事業の展開にも注力しており、発電事業が成立しそうな風況の良い場所を探し、地元の協力者を募り、協力して特定目的会社（SPC）を立上げ、金融機関から融資を受け、風力発電設備を導入、運用するという方式での事業も軌道に乗りつつある。

⑧日本原子力研究開発機構へ出向：核融合装置の開発

日本原子力研究開発機構では、約30年前に完成したJT-60を超伝導化することで、国際熱核融合実験炉「ITER」をバックアップするための「JT-60SA」の開発を急いでおり、私も定年直前の約2年間、同機構へ出向して核融合装置の開発に携わる機会を得ることができた。

5. 趣味の話

大学を卒業する時点で、高校生時代から続けていた「トランペッター（又は「ミュージシャン」）」になるか、車を速く走らせるのが好きだったので「レーサー」になるか等色々考えたが、結局無難に食べて行けそうな「エンジニア」の道を選択したわけであるが、HESCOに入社し、日立工場核設で実習することでミュージシャンとしても楽しい会社生活を送ることができた。



5. 1 日立工場「春の祭典」へ電力設計部代表として出場 ～ミュージシャン活動のスタート

私が入社した当時の日立工場は、設計・製造・検査（品質保証）他補助部門を入れて「約1万人」が「約25の部」に分かれて業務を行っており、従業員の士気の高揚及び親睦等を目的に全工場を挙げての行事が数多く開催されていた。私が配属された「電力設計部」は、5月の「春の祭典」の部代表を選考する「予選会」を前年の11月に開催していた。電力設計部に所属する「交流機第一設計（水車発電機担当）」、「交流機第二設計（タービン発電機担当）」、「直流機設計」、「電気部品設計（巻線構造・絶縁構造等担当）」、「核装置設計」の全5課の代表により歌合戦を行い、部の代表1名（or 1グループ）を決定するというもので、10月に核設に配属されたばかりの私は右も左も解らぬ状態で核設の代表（新人というだけの理由であったと思う）として予選会に参加、ギターの弾き語りで「ほおづき」を歌ったら何と優勝し、部の代表になってしまった。

翌年5月の「春の祭典」では、電力設計部内の若手女性8名にバックコーラスをお願いして、トランペット片手に「マイ・ウェイ」を歌い、翌年からは、バックのビッグバンドでトランペットを吹くことになった。結果、入社一年目に、軽音楽部、吹奏楽部、コーラス部と3つのクラブに入り、エンジニアとして異次元世界の業務を担当する傍ら、本格的な音楽活動も開始することになった。



5. 2 会社生活での音楽活動

トランペッターとして、軽音楽部では、春の祭典の伴奏や軽音楽部としての定期演奏会、ダンスパーティーでの演奏等年間を通して多くの行事に参加し、吹奏楽部では、賀詞交換会や都市対抗野球の応援、大運動会での約6,000人の入場行進時のマーチ演奏(約40分間連続演奏)等に参加した他、設計集団(C集団)の応援バンドにも参加した。このトランペッターとしての活動は10年ほど続いた。

トランペッター活動の一環として、日立工場の演劇部の活動にも参加した。

演劇部は、年に2回の定期公演を50年ほど継続しており、2～3年に1回程度のペースでミュージカルをやっている。パソコンがない時代は、ミュージカルの伴奏を生バンドが演奏する必要があったため、その生バンドにトランペッターとして参加していた。作曲や編曲は、日立交響楽団の指揮者を務められていた先輩が担当されていたが、私がその後を引き継ぐ形で、現在は、作曲・編曲で演劇部のお手伝いを継続している。最近は、SSW(シンガーソングライター)というパソコン用ソフトがあり作・編曲した楽譜を直ぐに演奏してくれる。もちろん演奏は機械的で味気ないが、記譜ミスが直ぐに確認できるし、上手く編曲すれば結構聞ける曲を演奏してくれる。自宅で歌うためのカラオケとしては、十分であり、ミュージカルの伴奏にも活用することで、バンドメンバー招集の苦労から解放された。インターネットで「黒石一夫」を検索すると、私が出願した特許等の他、「うたよみざる」というミュージカルも出て来る。

全曲、私が作・編曲したミュージカルのひとつである。

5. 3 近況

最近は、不況の影響もあり、春の祭典や大運動会等の工場を挙げての行事が少なくなってきた。

個人的には、トランペットを吹く機会も無くなったので、今や昔のような良い音は出せない。

但し、作・編曲活動のお蔭で、ギターの方は、今でも弾く機会が多い。作曲するときにコードを流しながらメロディーを考えたり、時折、古いフォークを歌ったり。昔作曲したフォーク調の曲とか、チューリップや風の歌等、お気に入りは全てSSWを使って、自分で編曲してカラオケを作つてあるので、自宅でカラオケを楽しむことが多いし、妻と二人でカラオケ店に行くこともある。

レーザー願望はといふと、ちょっといい車を乗り回すことで、取敢えず満足できている。

現在、通勤等に使用している車は、BMW 335i カブリオレ(鉄製の屋根が電動で開閉する)で、外見も加速も、ちょっといい車である。

6. 会社での近況

60歳に到達した2014年の6月末日で定年になったが、65歳到達までの5年間は、「シニア社員」として継続して雇用契約を締結できる(1年毎に更新)システムになっており、61歳になった現在もサラリーマンを継続している。仕事は、20年ぶりに、古巣である日立工場「核装置設計」へ設計請負の形で舞い戻つて、核融合や超伝導に関係する懐かしい業務を担当している。

7. 振り返って

日立では、若い頃は「世の中のため、お客様のため、必要な技術を開発することに専念せよ。お金は後からついてくる。」と常に言い聞かされて、技術最優先の環境で育つて来た感があつたが、課や部の収支に責任を持つようになってからは、技術にプラスしてお金(受注の確保、コスト削減の努力等)にも専念する必要に迫られ、自分の部下やその家族の生活を守ることも重要な仕事だと感じていた。何事にも、直面して頑張っている最中は、本当に大変で、もうダメ(解決策がない)では……と感じることも多かった。「その困難を何とか切り抜けて、更なる困難に立ち向かう」というのが、普通の人生ではないかと思う。振り返ってみると、苦労も楽しい経験のひとつであり、何とか切り抜けることができたことが自信に繋がり、仕事上だけではなく、人生に関しても多くのことを学ばさせてくれたと思う。苦労がなければ、人生は、味気ないものになっていたのではないかとも思う。

今後もまだ苦労はあるだろう。

私のモットー:「やりたいことには何にでもチャレンジすべし」

:「苦労こそが人生の最高の演出家である」

最後まで読んでいただきありがとうございました。

E22期 黒石一夫

編集後記:

まさに、次元が違います。黒石さんが、お父さんからの言葉をちゃんと憶えておられ、マリーン・エンジニアの卵から最先端技術開発、研究、実用化の専門職を続けられた経緯を読ませていただいて、2027年開業にこぎつけた超電導のリニア中央新幹線の基礎となつた当時の国鉄宮崎実験線にも黒石氏は関わってこられたことや自然エネルギーの風力発電事業等のいくつかの実務経験も積まれたこと、それとハイレベルの社内文化祭での音楽活動、愛妻、愛車BMWとともに、いい生活環境から覗かれた超や極の付く次元の高い世界での生き方、考え方、仕事のやり方を後輩達へ伝え、育て、次世代への引継ぎにしていただければ我々の希望、夢を叶えていただけるのではと、大いに期待しています。この投稿原稿を読みながら、私もいい夢を見させていただきました。ありがとうございます。

世のため、ご家族のため、黒石氏ご自身のためにも、どうか末長くご健勝でご活躍されますようお祈り申し上げます。

2015年11月 海神会 事務局 E13期 神吉行彦

男子端艇部

海事科学部3年 主将：田口 朋

1. 大会遠征費
2. 14名
3. 第61回西日本新人カッター競技大会第三位
4. 全日本カッター大会での優勝
5. 私たち男子端艇部は10/31に静岡県の三ヶ日で行われた第61回西日本新人カッター競技大会では3位という悔しい結果に終わってしまいました。しかしながら、この2年間は西日本新人カッター競技大会において優勝と第三位と私たちは再び力をつけています。部員の数が少なく、練習で苦労をすることもありますが私たちは日々の練習を大事にして優勝を目指して頑張っています。来年の全日本大会では優勝し、再び神戸大学を強豪校にしたいと思っていますので是非とも変わらないご声援とご支援をお願い致します。



女子端艇部

海事科学部3年 主将：鶴留 美鈴

1. 大会遠征費
2. 8人
3. 年間を通じて週4~6日活動をしております。
練習の他には、市民レースの運営補助、オールや艇の貸出し等を手伝います。みなさまのご声援のおかげもあり、今年度の全日本カッター競技大会では海上保安大学校を打ち破り、準優勝(優勝は、国立館山海上技術学校)しました。
4. 全日本カッター競技大会優勝に向け日々の練習に励んでいきたいと思います。
5. 日頃からのご支援ありがとうございます。皆様からのご支援のおかげで、集中して練習に打ち込むことができております。全日本大会優勝に向け日々練習に励みますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



野球部

海事科学部3年 主務：西川 侑輝

1. 大会費(年2回のリーグ戦費)
2. 11人、マネージャー1人(内4回生7人、マネージャー1人)
3. 活動報告
・春リーグ5位(2勝8敗)・秋リーグ6位(0勝10敗)
5. 現段階では人数が足りておらず、今後の動向については決定していませんがよろしくお願いします。



フォークソング部

海事科学部2年 代表：金森 郁奈

1. ライブ運営費の補助、機材備品費など
2. 18人
3. 今年は難しい一年でした。先輩方の引退とともに新入部員が当初が少なかったこともあり、今後の活動がどうなるか、転換期でもありました。そのときに、私たちに残されたこの環境を守っていくなければと思い、秋新歓への出展、積極的なビラ配り、部員による口コミによって、多くの新入生が最終的に入部してくれました。
4. とても明るい新入生が入部してくれましたので、今後はより活発に、そして、多くの他大学の生徒との交流も深めつつ、多様な部員で構成されるような団体にしていきたいです。また、海事での知名度を一層向上させたいです。
5. ご支援頂いたお陰で、ライブの企画への障壁が少くなり、とても感謝しております。ここでの支援が無駄にならないように、しっかりと大学に貢献できる団体でもありますと考えていますので、今後ともよろしくお願い致します。



総会懇親会 寮歌齊唱

海神会支援の部活動報告

カヌー部

海事科学部 3 年 主将：花内 雅紀

1. 神戸大学体育会に属するカヌー部は1989年に創部し今年で27年目の部活です。通常は週5日深江キャンパスの艇庫を拠点に芦屋浜、キャナルパーク北側水路で練習しています。
2. 部員は海事科学部の学生10人を含む23人が在籍しています。
3. 僕たちは大学でカヌーを始めた部員がほとんどですが、最近ではインカレで決勝に行く選手や関西インカレの4人乗りで3位入賞などを果たし、着実に実績を残して来ています。
4. 深江キャンパス、ポンド、艇庫を拠点にし、地の利を生かして日々の努力、充実した課外活動を行えば、高校から始めた私立大学や先輩たちと対等に戦い、上位を目指すことができます。ただカヌーは競技の性質上非常にお金のかかるスポーツです。艇自体も高価ですが、艇の運搬大会の遠征費用合宿費と様々な運営費用が必要です。金銭面で競技を続けられなくなる部員も毎年います。
5. 深江キャンパスで活動する他のクラブ同様に海神会からのご支援をいただければ助かります。ご検討の程よろしくお願いします。

1. 支援金の使途 2. 部員数 3. 活動状況 4. 今後の目標 5. 海神会へ一言



オフショアセーリング部

海事科学部 2 年 主将：藤野 功貴

1. 活動に使用するヨットの整備・遠征費用・大会出場費用
2. 76人（4年10人・3年20人・2年21人・1年25人）
3. 24フィートのヨット3艇を用いて平均して週に4回は活動しており、オフの時期には大掛かりな整備をしています。月に1回はレースに参加したり、26フィートのヨットでクルージングに行ったりといった学外活動を行っています。また、2015年3月に行われた全日本学生ヨット選手権で優勝し、同年10月にフランスにて開催されたSYWoC(Student Yachting World Cup)に参加して、歴代最高順位である6位という好成績を収めました。
4. 人数も増え、安定した活動を行えるようになってきました。今後は毎年3月に行われる全日本学生ヨット選手権で連覇をし、SYWoCに参加して世界規模で活動することを目標に練習していきます。また、レースやクルージングを通して、部全体のセーリング技術の向上も目標にしています。
5. 毎年ご支援頂き本当にありがとうございます。ご支援のおかげで日々の活動を行うことができています。今後も精力的に活動していきますので、ご支援のほどよろしくお願ひいたします。



茶華道同好会

海事科学部 3 年 部長：辻本 佐和子

1. 共同使用の茶道具購入および先生へのお稽古代の一部
2. 5名
3. 先生のご指導の下、個人のレベルに合わせたお稽古をつけていただき、各々の目標に向けて精進しております。昨年度行った和室でのお茶会からさらに幅を広げようと、今年度は深江祭でもお茶会を開催いたしました。1日のみの開催となりましたが、初めての方から経験者の方までたくさんの方に来場していただき、普段のお稽古とはまた違った雰囲気の中でお茶会を楽しむことができました。様々な方に茶道の世界に親しんでいただいたのと同時に、海事茶華道同好会の存在も知っていただけたのではないかと思っております。
4. 部員数を増やし、さらに活発に活動していきたいです。
5. 日頃からのご支援、大変感謝しております。これからも支援金を有効に活用させていただき、稽古に励み、活動の幅も広げていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

弓道同好会

海事科学部 2 年 主将：南 研成

1. 的紙などの共同備品、除草用雑費などの道場整備品購入費
2. 3名
3. 主に個々人の活動が多いですが、自分と向き合い、精神力を高めるために各自けいに励んでいます。今後はそれぞれ昇級昇段審査にて級、段の所得に臨みたいと思っております。

5. ご支援感謝しております。これからも精進を重ね、日々の充実と自身の研鑽を目指します。





第10回神戸大学ホームカミングデイ

2015年10月31日（土）、第10回神戸大学ホームカミングデイが開催されました。当日の午後には、深江キャンパスにて学部企画が実施され、卒業生、教職員、現役の学生を合わせ92名の方にご参加いただきました。準備にご協力をいただいた海神会、教職員、学生自治会の皆様、並びにご参加いただきました皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。学部企画では、総合学術交流棟梅木Yホールにて以下の講演が行われました。それぞれの講演内容を簡単にご報告させていただきます。

（1）学部長挨拶・大学現況報告

同窓会企画である海神会評議会終了後に神戸大学ホームカミングデイの学部企画がスタートしました。まず、内田誠研究科長より、海事科学部の礎を振り返るとともに大学の現況報告として神戸大学および海事科学研究科を取り巻く昨今の状況が報告されました。平成29年度に予定している大学院改組、今秋設置され海事科学研究科、理学研究科、工学研究科が深く関わる神戸大学海洋底探査センター（KOBEC）、学部・大学院等のミッション再定義と機能強化等が紹介され、海技者養成教育の高度化・グローバル海洋人材の養成、実践的な海事教育、国際海事社会への貢献、を実践することが本研究科のミッションであると報告されました。



内田研究科長による挨拶と大学現況報告

（2）学生による研究発表

続いて海事科学研究科修士2年生の谷口直君による研究発表が行われました。題目は「微小気泡と衝撃波を用いたバラスト水処理技術に関する数値計算」で、研究指導教員は海事マネジメント科学講座エネルギー流体科学研究室の宋明良教授です。本研究の目的は、バラスト水処理技術の一つである衝撃波殺菌法での微小気泡と衝撃波の相互作用を再現する数値計算手法を開



谷口直君による研究発表

広報・社会交流推進委員会 平山 勝敏

発することです。本発表では、提案手法の妥当性を様々な検証問題で検証し、水中衝撃波と空気泡の干渉問題における解析例を示すことにより、提案した数値計算手法がバラスト水処理技術に適用できる見通しを得たと報告されました。

（3）記念講演

最後に、神戸商船大学輸送科学科1期生で、現在、株式会社日立物流執行役ロジスティクスソリューション開発本部長の藤谷寛幹氏による記念講演が行われました。司会の西尾茂教授による略歴紹介の後、「1979 源流・奔流・物流」という題目で約40分のご講演をいただきました。「源流」として、1979年に入学した神戸商船大学時代の様々なエピソードをご紹介いただきました。また、当時学んだことで今でも役立っていることとして、挨拶、ロープワーク、講義（オペレーションズリサーチ、統計確率、シミュレーション）、人脈などを挙げておられました。「奔流」では、日立運輸（現日立物流）入社後のエピソードをご紹介いただきました。特に1999年から海外を含む3PL（サードパーティロジスティクス）に携わったご経験を写真付きでご紹介いただきました。「物流」では、まず、物流業界の現状をご紹介いただき、高付加価値の3PL市場は今後拡大するとの予想を示されました。次に、日立物流による事業の概要とグローバル化への転換の重要性を強調されました。さらに、「スマートロジスティクス」へ向けた最近の取り組みとして、最適提案、高効率化、物流運営の可視化を目的とした数理最適化技術および情報技術の様々な応用事例をご紹介いただきました。講演の最後に「最近感じること」の一つとして述べられた「30年かけて、輸送科学科が目指してきたものが見えてきました」という言葉が報告者には大変印象的でした。



藤谷寛幹氏による記念講演

学部企画に先立ち13:30から14:30過ぎまで同窓会企画である海神会評議会が行われました。また、併催企画として12:30から16:30まで海事博物館見学会が行われ多数の方に来場いただきました。

上記講演の間の時間を利用して、海事博物館功労者感謝状贈呈式が行われました。矢野吉治海事博物館館長による5名の功労者（定兼廣行氏、松木哲氏、日野賀生氏、志田修二氏、金井清氏）のご紹介の後、当日ご出席いただいた松木哲氏、日野賀生氏、志田修二氏に対して内田誠研究科長より感謝状が贈呈されました。

講演終了後には、梅木ホールに場所を移して懇親会が開催され、多くの方にご参加いただき大変盛況な会となりました。来年もホームカミングデイへのご参加を心よりお待ちしております。

会計報告



平成27年度 第12回総会式次第

開催日時:平成27年5月23日(土) 15:00~16:30

開催場所:学内 総合学術棟 1F 梅木Yホール

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選出
5. 議案

第1号議案:平成26年度事業報告、収支決算及び監査報告について

第2号議案:平成27年度事業計画及び収支予算案について

6. 林祐司海事科学研究科長より神戸大学と海事科学部の近況報告がなされた
7. 各支部の活動報告
9. 閉会

平成26年度 海神会 収支決算書

(単位:円 平成26年4月1日から平成27年3月31日迄)

科目	26年度決算額	27年度予算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 会費収入	5,394,000	6,110,000		
2. 雑収入	445	500		
当期収入合計(A)	5,394,445	6,110,500	△ 716,055	
II. 支出の部				
1. 事業費				
総会経費、会誌発行、送料等	960,000	1,162,431	△202,431	
HP維持、クラスと学部支援	1,517,958	1,465,000	△52,958	9,19,29期生
関係団体、支部、部活経費等	1,319,958	1,308,000	△11,958	
小計(a)	4,000,347	3,733,000	△267,347	
2. 管理費				
人件費、会議、交通費等	1,978,630	1,575,000	△403,630	名簿一本化事務含む
印刷費、通信費、消耗品等	1,648	83,000	81,352	
事務費、光熱費、雑費等	390,934	482,500	91,566	
小計(b)	2,371,212	2,140,500	△230,712	
3. 予備費(c)	0	210,500	210,500	
当期支出合計(B=a+b+c)	6,371,559	6,084,000	△287,559	
次期繰越収支差額(C=A-B)	△977,114	26,500		
当期余剰金処分案	平成26年度			
平成26年度前期繰越金	3,843,454			
当期繰越金	△977,114			
次期繰越金	2,866,340			

※収支決算書並びに予算書に於いて
疑問点がありましたら
事務局までお問い合わせください

平成26年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成26年4月1日から平成27年3月31日迄)

科目	26年度決算額	26年度予算額	差異	備考
1. 収入の部				
預金利息	9,385	101,000	91,615	定期預金利子
収入合計(A)	9,385	101,000	91,615	
2. 支出の部				
送金手数料	0	0	0	
合計(B)	0	0	0	
次期繰越収支差額(A-B)	9,385	101,000		
預かり金処分内訳	平成26年度			
平成25年度繰越金	28,808,504			
当期支出合計	9,385			
次期繰越金	28,817,889			

平成27年度 海神会 収支予算書

(単位:円 平成27年4月1日から平成28年3月31日迄)

科目	27年度予算額	26年度決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 会費収入	5,500,000	5,394,000		
2. 雑収入	500	445		
当期収入合計(A)	5,500,500	5,394,445	106,055	
II. 支出の部				
1. 事業費				
総会・会誌発行・送料等	1,090,000	1,162,431	△72,431	
HP維持・クラスと学部支援等	1,500,000	1,517,958	△17,958	10,20,30期生:H27年度
関係団体・支部・部活経費等	1,208,000	1,319,958	△111,958	
小計(a)	3,798,000	4,000,347	△202,347	
2. 管理費				
人件費・会議・交通費等	1,515,000	1,978,630	△463,630	
印刷費・通信費・消耗品等	13,000	1,648	11,352	
事務費・光熱費・雑費等	174,500	390,934	△216,434	
小計(b)	1,702,500	2,371,212	△668,712	
3. 予備費(c)	0	0	0	
当期支出予算差額(B=a+b+c)	5,500,500	6,371,559	△871,059	
次期繰越収支差額(A-B)	0	△977,114	△765,004	

平成26年度 海神会 特別会計 収支予算書

(単位:円 平成27年4月1日から平成28年3月31日迄)

科目	27年度予算額	26年度決算額	差異	備考
1. 収入の部				
預金利息	9,500	9,385	115	定期、普通預金利子
小計	9,500	9,385		
前年度繰越収支差額	28,827,274	28,817,889		
合計(A)	28,836,774	28,827,274	9,500	
2. 支出の部				
送金手数料他	10,000	0	10,000	
予備費	500,000	0	500,000	
合計(B)	510,000	0	510,000	
次期繰越収支差額(A-B)	28,326,774	28,827,274	△ 500,500	

特別会計は、神戸大学海事科学部同窓会「海神会」の基金として置くものである。

平成26年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成26年4月1日から平成27年3月31日迄)

科目	26年度決算額	26年度予算額	差異	備考
1. 収入の部				
預金利息	9,385	101,000	91,615	定期預金利子
収入合計(A)	9,385	101,000	91,615	
2. 支出の部				
送金手数料	0	0	0	
合計(B)	0	0	0	
次期繰越収支差額(A-B)	9,385	101,000		
預かり金処分内訳	平成26年度			
平成25年度繰越金	28,808,504			
当期支出合計	9,385			
次期繰越金	28,817,889			

特別会計は、神戸大学海事科学部同窓会「海神会」の基金として置くものである。



クラス会

神戸商船大学第10期 卒業50周年同窓会

人生50年と粹がっていた寮生活から50年、これを記念し、去る10月1日、2日の二日間、記念同窓会を計画したところ61名の同窓生（航海学科22名、機関学科39名）に集まって頂き、加えてご高齢に拘らず出席して頂いた古川先生を交えて無事終了することができました。

海神会より、航海学科及び機関学科に対し多額の寄付を頂き、経費の一部とさせて戴きました。誠にありがとうございます。



N10期 鈴木 三郎

同窓一度深く感謝し御礼申し上げます。「有難うございます。」

ここに同窓会の様子を披露し、集合写真を同封させていただき海神会への報告とします。

初日の10月1日は、神戸大学海事科学部深江キャンパス・梅木ホールにおける内田誠学部長の「大学の現状」の話に始まり、矢野吉治教授によるキャンパス・練習船深江丸・海事博物館見学、記念撮影を行いました。その後、バス移動し、夕刻シーサイ

ドホテル舞子ビラに入り、明石大橋を望む大浴場で入浴、潮騒の間で古川先生のお言葉を頂き懇親会に入りました。約2時間半があつと言う間に過ぎ、盛り上がったところで各部屋に別れ、三々五々再度部屋に集まり、深夜に及ぶまで昔話でさらに盛り上がりました。

二日目は、バスで灘の酒造見学として株式会社酒心館（旧福寿酒造株式会社）に、途中バスガイドより神戸の名所・旧跡の話を聞きながら、酒心館で大吟醸を試飲しました。その後、バスでポートタワーに赴きタワーの上から大震災20年後の神戸の港・街を一望し、メリケン食堂で昼食を取り、再開を約束し解散となりました。

同窓の元気な顔・顔・顔、苦労話・昔話・昔話・昔話、で新たに英気を養い、皆若くなったようです。

平成27年10月8日

航海学科幹事

今西邦彦、真田紘一郎、中川昭夫、鈴木三郎

機関学科幹事

嶋 公治、清和 秀久、中井 昇、杉田英昭



40周年20期生同窓会報告

私達20期生は、“集いましょう！今でしょ”をスローガンに30周、35周年に次ぐ卒業40周年同窓会を平成27年9月5日—6日航海学科26名、機関学科25名+1年夏退学、歯科医の山城君を加え初参加7名、総勢52名を迎えて明石海峡を一望できる「舞子ビラ」にて開催致しました。

過ごした学生時代(昭和46年～昭和50年)の背景を少し、大学紛争も下火になり、昭和47年の全日本海員組合の100日ストと高度成長期の中、日本海運界は転換期を迎え、商船大生の引く手数多の時代は終わり、行きたくても行けない船会社と受難の道へ、貨物船に変わり今では主流のコンテナ船が就航し始め、神戸港では、ポートアイランドの埋め立てとコンテナふ頭が整備されつつありました。



記念写真撮影後、若かりし入学時の顔写真、校章、学籍番号及び寮の部屋を記した峰君の労作の名札を胸に「舞子の間」に集合。

関東仕切り役の川名君によるスローガンよろしく「呑むのは何時や」「騒ぐのは何時や」「楽しむのは何時や」掛け声に応え「今でしょ！」の3連発の開会の辞に続き、広島より今回初登場、機関学科学籍番号E20001番のゴルフ大好きの阿部君の乾杯で同窓会の幕が開きました。

“語りましょう 当てましょう 運比べ”～各自1分間スピーチ～近況報告、これから夢、かわいい孫の事、海運から離れ福祉、IT関連の社を起業した事、病、健康の事等々千差万別それぞれの人生を歩んでこられたこの40年の重さを感じるひと時でした。

賞品は、神戸近郊の名産品と記念品として“開けてびっくり”コンパスマーク入り瓦せんべいと入学時の集合写真を配布しました。

伝統の自己紹介、朝食のうどん等思いで深い白鷗寮を懐かしみ、歌を張り上げ寮歌を熱唱しました。

閉会の辞は、同窓会の度に、「もっと集めなあかん」が口癖、関東在住ここでて大阪人の坂本君が、5年前、次回も面倒みようと今回の会場探し等協力してくれた大庭君、音信不通者の発見が得意な峰君、大学に残る関西地区忘年会永久幹事の福岡



N20期 実行委員 池田 隆宏

教授、そして何故か毎回同窓会を任される池田の関西実行委員に感謝、ここに集いし同窓生に感謝、感謝を忘れず必ず5年後再会しましょうと。次回も5年後に決まりました。

最後に、退職後、ふるさとの京都に戻り農業に勤しみ、地元の氏神様の神職を兼任されている内藤君が皆の健康、5年後の再会を祈願し一本締めにて締めくくりました。

二次会は、N新寮組の部屋に集まり、思い出話に花を咲かせ、深夜までおとよび、話は尽きないものでした。

翌日は、あいにくの雨模様でしたが、ゴルフ、テニス、水泳訓練の地“淡路島周遊の旅”と1泊2日大いに楽しみ、青春を取り帰路につきました。



ゴルフ”オリオン会“は、35周年に次ぐ清田君の2連覇、ペスグロは、86で回った準優勝の宮崎君でした。

20期と掛け合させて、阪神淡路大震災から20年、東日本大震災から4年を迎えるにあたり、ONE COIN 義捐金を募り、長期間の支援が必要な震災孤児の支援法人“みちのく未来基金”に寄付いたしました。

紙面をお借りし、20期生の同窓会兼用の恒例の集まりのお知らせ！

- ・関西地区忘年会 毎年12月第一土曜日 深江にて開催
- ・関東地区新年会 每年2月20日

末筆ながら、この度の同窓会を開催するに当たり、海神会様よりご支援頂いたことに御礼を申し上げるとともに、貴会の益々ご発展をお祈り致します。



海神会同窓会事務局の案内

2016年2月吉日

神戸大学海事科学部同窓会
海神会会員の皆様へ

海神会
神戸大学海事科学部同窓会
会長 久保 雅義
(元海事科学研究科長・部長)

海神会会費納入のお願い

卒業生の皆様、益々のご健勝、ご活躍を心よりお慶び申しあげます。

また、在学生の学生会員の方々も平素より海神会の活動に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

海神会は、現在1万人近くの会員で構成され、会員相互の親睦を図るとともに、海事科学部・海事科学研究科の発展に寄与することを目的に各種事業を行なっています。

事業内容は、同窓会名簿の管理、年1回の会報の発行、卒業記念クラス会への開催支援、海事科学部の年間行事、環境整備などへの支援、クラブ活動への支援、表彰制度のもとに海神会賞の贈呈、また全国の主要な都市に支部を設置し地域での活動の支援も行なっています。

海神会の更なる積極的な事業活動の実施のため財政基盤の強化が不可欠となっております。

下記の同窓会費及びご寄付の納入をお願い致します。

海神会組織基盤の強化を図り、海事科学部および海事科学研究科の益々の発展の一助となりますように、何卒、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

記

付記事項

- ①海神会だより送付封筒の宛名シールには学籍番号や会費納入状況等が印字されています。
 - ②同窓会費は、終身会費として3万円の納付をお願いしております。
 - ③同窓会費は5千円単位での分納も受け付けています。
 - ④同封の払込取扱票に必要事項をご記入の上、郵便局にてお振り込み下さい。
 - ⑤終身会費完納の方には寄付金としてのお振込みも受付けています。
- 払込用紙の会費・寄付欄に○印をご記入ください。寄付金は1千円単位で受け付けています。
- ⑥振込みされた会費ご寄付は原則返金致しませんのでご注意下さい。
 - 会費の重複振込を防ぐため、ご不明の際は事務局までご確認下さい。
 - ⑦振替払込請求書兼受領証は大切に保管してください。
 - ⑧2015年度に会費を完納された方に新会員証を送付しました。大切に保管してください。
 - ⑨同窓会口座への振込みはATMからもできます。

振込先：ゆうちょ銀行 振替口座 00900-5-269639

名 義：神戸大学海事科学部同窓会

(会員の名前、住所、卒業年、学科を分かる範囲でご記入ください。)

⑩その他、ご意見がございましたら、下記へお気軽にご連絡下さい。

海神会事務局（担当：神吉）

〒658-0022 神戸市東灘区深江南5丁目1-1 神戸大学海事科学部内

Tel&Fax : 078-431-6439

携帯 Tel : 090-9977-9189 E13期 神吉行彦

e-mail : almmata@maritime.kobe-u.ac.jp

ホームページ : <http://www.fukae.org/>

神戸大学海洋底探査センターを設置

平成27年10月1日、神戸大学に海洋底探査センター(KOBEC)が開設されました。

このセンターは深江キャンパスの総合学術交流棟にあります。

今後、深江丸は練習船としての活動に加え、理学研究科などと連携して鹿児島県の薩摩半島と大隅海峡の南側海底に位置する鬼海カルデラの探査や海洋研究者的人材育成に着手します。詳しくはKOBECのホームページをご覧ください。





海事科学部同窓会海神会への寄付者一覧 NO.3(2014年4月～2015年3月)

55名の方々から954,000円のご寄付を頂きました。皆さまのご支援を心よりお礼申し上げます。

納入年月日	氏名	卒業学科・期	金額(千円)	備考
2014年4月	成川 寛容	海事科学部卒	30	
2014年4月	村田 正一	E22期	30	
2014年4月	増田 徹	E19期	30	
2014年4月	堀家 勝	N20期	30	
2014年4月	西原 裕人	N9期	30	
2014年4月	木梨 哲司	E13期	30	
2014年4月	中村 道夫	E20期	30	
2014年5月	藤井 洸	N15期	5	
2014年5月	山川 欣男	N12期	5	
2014年5月	矢野 巖	N26期	5	
2014年6月	荒井 清明	A2期	10	
2014年6月	牛島 龍彌	N13期	10	
2014年6月	金澤 龍夫	N13期	30	
2014年7月	国枝 佳明	N27期	30	
2014年8月	前野 史朗	海事科学部卒	30	
2014年9月	藤原 義和	E17期	3	
2014年9月	三隅田良吉	高等商船N44期	3	
2014年9月	村井 五郎	N13期	5	
2014年10月	坂本 吉紀	高等商船N29期	10	ご子息様より
2014年10月	関 信三郎	E9期	5	
2014年12月	光長 央人	N33期	5	
2015年1月	神吉 行彦	E13期	5	
2015年1月	久保 雅義	N13期	10	
2015年2月	石賀 栄治	BE45	10	
2015年2月	海道 俊雄	N2	10	
2015年2月	樽美 幸雄	N45	30	
2015年2月	土井 研二	N5	5	
2015年2月	中村 和義	N14	100	
2015年2月	船津文左右	高等商船E45	2	
2015年2月	藤原 義和	E17	5	
2015年2月	三隅田良吉	高等商船N44	10	
2015年2月	道家 求	N5	10	
2015年3月	網中 俊之	N23	100	
2015年3月	石橋 通子	海事科学部	30	
2015年3月	稻葉八洲雄	N7	30	
2015年3月	尾形 民雄	N29	5	
2015年3月	岡安 博	高等商船E45期	5	
2015年3月	大江翔太郎	BN49	5	
2015年3月	鏡 敏弘	N16	30	
2015年3月	久保 雅義	N13	10	
2015年3月	佐藤 昭男	E6	20	
2015年3月	佐藤 更	海事科学部	1	
2015年3月	澤田 政泰	N21	30	
2015年3月	塙月 國廣	N19	5	
2015年3月	鈴木 武夫	E7	30	
2015年3月	平倉 浩一	N7	10	
2015年3月	平山 智子	海事科学部	5	
2015年3月	松永 尚幸	N26	10	
2015年3月	前川 陽司	N38	10	
2015年3月	宮尾 昇	E15	5	
2015年3月	箕輪 周一	BN44	10	
2015年3月	村井 五郎	N13	10	
2015年3月	森本 靖之	N7	10	
2015年3月	湯浅 章二	E13	10	
2015年3月	吉田 武治	E13	10	
合計			1,030	43名

[敬称略:五十音順]

海事科学部同窓会海神会への寄付者一覧 NO.4(2015年4月～2015年11月)

10名の方々から618,000円のご寄付を頂きました。皆さまのご支援を心よりお礼申し上げます。

納入年月	氏名	卒業学科・期	金額(千円)	備考
2015年4月	淵之上寅雄	高等商船E45	10	
2015年4月	荒井 清明	A2	10	
2015年4月	須賀 弘	N13	30	
2015年5月	安枝 勇	E14	5	
2015年6月	西富 悅夫	N44	30	
2015年6月	刈屋 澄世	N13	500	
2015年7月	西重 正博	E21	5	
2015年8月	片山 哲三	N24	5	
2015年10月	伊藤富士彌	N1	20	
2015年11月	國井 正明	E10	3	
合計			618	10名

[敬称略: 五十音順]



9. スエズを越えて、ハンブルグへ

昭和59年2月多度津造船所で建造された冷凍貨物船 BETTY B(ベッティー ビー) <これは、変な船名であるが、日本船で乗組もすべて日本人>13,000トンは多度津出港後約20日でスエズ運河を通過し、イスラエル、アッシュドットに入港し、ドイツ、ハンブルグとロンドンの外港シーアネス揚げのオレンジ積みを始めた。船長をはじめ乗組員一同冷凍貨物の積み付け、運搬は初めてのこととて本船の傭船会社(コペンハーゲンのローリッテン社)からベテランの元冷凍貨物船の船長経験者が、本船乗組として乗船し、積み付け貨物の保全などについてアドバイスしてくれ、積み付け作業は順調に経過したが、積荷作業中にオレンジの入っている段ボール箱が破れ、船艙内や岸壁にオレンジが散乱し、そのオレンジの取り除きに乗組は大忙しだった。ある乗組が船に入りする八百屋に荷主と交渉してそこらに散乱しているオレンジを安く売ってもらえないだろうか、言ったところ、八百屋が言うのには、冷凍船の乗組が金を出して船に散らばっている果物を買ったなんていふことは、今まで聞いたことがない。いずれ揚地のハンブルグに行けば、その理由がよく分かる、とのことであった。程なくオレンジ積みも終わり最初の揚地ハンブルグに入港してみると。揚荷関係の人夫たちは、各自リュックサックやボストンバッグをもって乗船してきて、揚荷中に段ボール箱が破れてそこらに散乱したオレンジをリュックサックやボストンバッグに入れて、毎日の荷役終了とともに、楽しそうに持ち帰っていた。また来船する水先人もボストンバッグをもってきて、これにオレンジを一杯いれてくれ、という始末で、彼らは冷凍船が入港するのを楽しみにして待っているようであった。

それでイスラエル出港時八百屋の言った理由がよく分かった。それ以来、約1年余り、オレンジ、オレンジジュース、バナナ、ブドウ、リンゴ、等を運び、大西洋をあちこち走りまわったので、果物に不自由することもなく、まことに結構な船に乗ったものよ、と思ったが、これらの果物輸送については、温度管理その他色々と難しいことがある。例えば、バナナを積んで航海中は毎日のようにその日の海上模様、気温等を荷主に打電通知すると、荷主の方から折り返し船倉内の温度を指示してくる、船では指示された温度に保ちその温度記録用紙を入港後、荷主に提出して、荷主の指示通りに温度設定した証拠書類とする。またバナナは、酸気を大変嫌うので、バナナ積みの前にオレンジなど酸気のある果物を積んだ場合は、船倉内を徹底的に洗い落とし酸気を排除する必要がある。この手続きをおろそかにすると、積み込んだバナナは船内ですぐに熟れて黄色くなり商品価値がなくなる。

神戸高等商船航海科43期生 村田 悅雄

<バナナはシビない程度の温度に保ち荷揚げのときは、青くなければならない>
以上のようにあいで随分と気を使うこともあった。

10. ケープタウンにて

ケープタウンで北欧むけのリンゴとオレンジを積んでいたときのことである。本船のすぐ近くに日本のマグロ漁船が接岸しておった。それを見つけて乗組の一人が「あれ、あのマグロ船は、高知の漁船だ、よし、あの船に行って、マグロの刺身を食べてこよう」といつてその乗組員はマグロ船のなかに入ってゆき、何の挨拶もなく食堂に入り「刺身はどこにあらあや」とたずねると、漁船の人たちが「刺身は冷蔵庫だ」と言ったので、その乗り組みは黙って冷蔵庫を開け、たらふく刺身を食べたところ、漁船の連中が「ところで、オンシャアどこの人ならや」と聞いたので「自分はこの隣に着いている冷凍船だ、俺も高知ぜよ」と言うと「そんならお前の船には果物が一杯あるだろう」と言い、「おお、果物なら一杯あるぞ、とりにこいや」という、やりとりがキッカケとなり、すっかり双方の乗組が仲良くなり、ケープタウン市内の漁船員たちが良く行くバー、ヨコスカで飲んでいたようである。ある日、バー、ヨコスカのホステスたちが本船に遊びにきて、いろいろ話しているうちに、彼女たちの言うのには、日本で大きな港は神戸、横浜、ヨコスカ、つぎは安芸、室戸、奈半利と言いました。安芸、室戸、奈半利はいずれも高知市東部の小さな漁港で、高知のマグロ漁船の船籍港にもなっており、マグロ漁船の乗組たちがバーで飲みながらよく口にするので、ホステスたちは、これらの港は随分大きな港であると思っていたらしい。

これらの3つの港もアフリカでは、えらく昇格したものである。

第14号につづく

村田 悅雄様より 近況報告

至極健康、グランドゴルフ、ダーツ、輪投げ、カラオケを楽しんでおり毎日、略8,000m、10,000歩 歩いております。

平成27年8月22日

予告

次回号より会社広告掲載を計画しています。
本件に関するお問い合わせ、ご意見等は海神会事務局にご連絡ください。

平成28年度海神会理事会・総会・懇親会の日時、場所が決まりました。

日 時：平成28年5月28日(土)

理事会会場：総合学術交流棟梅木Nホール、14:00～15:00

総会会場：総合学術交流棟梅木Yホール、15:00～16:30

議題：平成27年度収支決算、平成28年度予算、役員交代、活動報告など

懇親会：総合学術交流棟梅木ホール、16:30～18:00
尚、当日は深江祭と同時開催予定です。

同窓会総会及び懇親会に出席される方は

FAX又はメールにて

ご連絡いただきますようお願い致します。

TEL/FAX : 078(431)6439

E-MAIL:

almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

参加申込先

平成28年度 第11回ホームカミングデイは10月29日(土)です。

海神会評議会も上記と同会場にて当日13:00～14:00を予定しています。詳細は追ってお知らせします。どうぞ、ご参加ください。お待ちしております。